

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート報告

(一財)北海道難病連 代表理事
札幌市難病相談支援センター センター長
増田 靖子

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

【調査目的】

北海道胆振東部地震に伴う被害の実態と対応について調査し今後の災害対策に備える

【調査時期】

平成30年9月～10月

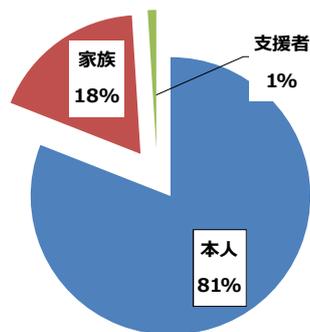
【調査対象】

北海道難病連 会員のうち災害時に支援を必要とする在宅暮らしをしている方(500名)に調査票を送付
304名から回答があった

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

「回答者について」

n=304

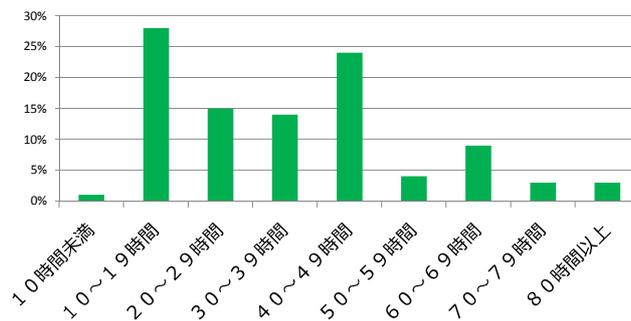


- 回答者の8割が難病患者・障害者本人。
- 回答者の居住地は8割が札幌市であった。

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

「停電時間について」

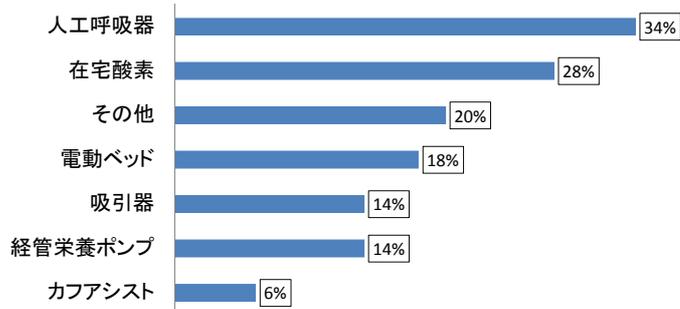
n=283



- 北海道全体で最低10時間以上の長時間の停電
- 「10~19時間」「40~49時間」の2つのパターン
- 「精神的な重圧」と「深刻な対応」が余儀なくされたことがうかがえる

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

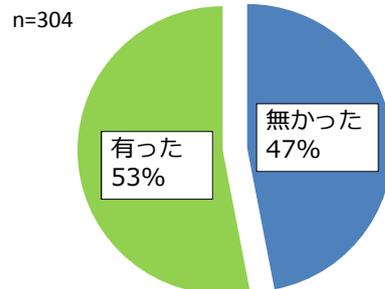
「停電で使えなかった医療器具」（複数回答）



- 割合の高い順に「人工呼吸器」（34%）「在宅酸素」（28%）
「電動ベッド」（18%）
- 停電への対応を本人、関係者が平時より考えておくことが必要

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

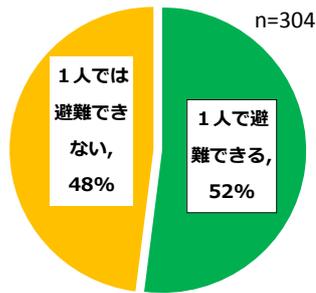
「1人暮らしへの福祉関係者からの安否確認」



- 福祉関係者からの安否確認が有ったものは「半数」に過ぎなかった
- 安否確認者が多かったのは「患者会」「ケアマネージャー」
「ヘルパー」「訪問看護師」「民生委員」であった

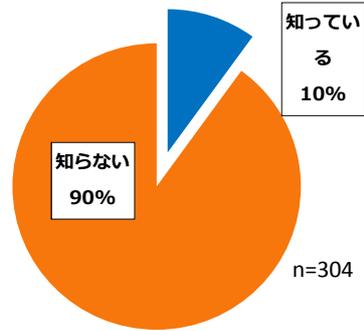
北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

「災害時 1人で避難することができますか」



- 約半数が「1人では避難できない」と回答し災害時に何らかの支援を必要としていることが分かる

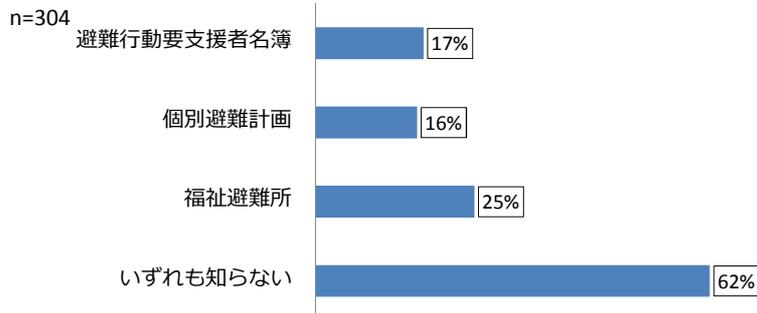
「福祉避難所の設置場所を知っていますか」



- 「福祉避難所」の設置場所はほぼ知られていない
- 札幌市・旭川市など事前公表していない自治体がある

北海道胆振東部地震に関する 緊急アンケート

「知っている防災用語について」



- 札幌市は10万人の「避難行動要支援者名簿」を作成済だが緊急アンケートでは回答者の6割がいずれの用語も知らないと回答

災害時の難病患者への対応について 思っていること（自由回答）

【旭川市在住、女性、50歳代】

- オスメイトの人たちはパウチ交換が必要
避難所に交換ができる場所は無いと思う
- 役所でストーマ器具類を備蓄してほしい
- 外見から障害が分からないが手助けが必要
ヘルプマークを常に持とうと思う

災害時の難病患者への対応について 思っていること（自由回答）

【札幌市在住、女性、30歳代】

- 人工呼吸器の電源確保のため入院
翌日停電解消したため退院した
- もし次に停電が起こった時、呼吸器・加湿器・サクシヨン器・酸素濃縮器すべての電力がまかなえるのかという不安
- 病院以外で電源確保できる場所が必要

災害時の難病患者への対応について思っていること（自由回答）

【札幌市在住、女性、60歳代】

- 皮膚の感染症や痛み・偏見のため一般の避難所には行けない
- 災害マニュアルについて早期に検証すると同時に緊迫感をもって、難病患者への具体的な災害時サポートの確立を実現すべきである

災害時の難病患者への対応について思っていること（自由回答）

【男性、60歳代】

- 障害者の目線で作成された避難行動マニュアルを見たことがない。
- 健常者用のマニュアルに障害者用のマニュアルを一緒に書き込むことによって、一般の人達は避難するときに、近所の障害を持っている人に声がけするとか、支え合いの気持ちも生まれてくるのではないか。

緊急アンケートから みえてきたこと

- 札幌市は10万人の「避難行動要支援者名簿」を作成済だが緊急アンケートでは回答者の93%が「登録していない」「分からない」と名簿の存在を認識していない
- 「個別支援計画」の作成については「未着手」の市町村が多い。難病対策地域協議会などの場で優先して取り組むことが必要
- 難病患者・障害者への避難や救済の情報が不足している現状が明らかとなった
- 国の方針、自治体の取組み、当事者の認識が共有されていない

13

北海道難病連 震災後の取り組み

災害対策部会の設置

- ① 避難等マニュアルの整備
- ② 会員・団体の安否確認のシステム構築

難病センターの防災対策

- ① 施設内の安全対策（通路確保・整理整頓）
- ② 消防用設備点検・改修
- ③ 自家発電機点検
- ④ 備蓄品（発電機等）・保管場所確保